

尊い命を守れ！

本年に入り、6月末までに市内で発生した人身事故は173件、傷者数は194人と前年の同時期と比べ減少しています。しかし、すでに3人の尊い命が失われており予断を許さない状況です。悲惨な事故を防ぐために私たちにできることは何があるのでしょうか。



安曇野市の事故状況（1月～6月末時点）

区分	2019年	2018年	前年比
人身事故件数	173	180	-7
傷者数	194	214	-20
死者数	3	0	+3



安曇野警察署交通課長
原田 篤志 さん

こまめなライトの切り替えを

今 年は歩行者が横断中の事故が多くなっています。夜間に道路を横断している歩行者はロービームのライトでは発見しにくく、発見した時にはブレーキが間に合わないことがあります。ハイビームの使用はあまり定着していませんが、事故を防ぐためには普段からライトの切り替えをこまめに行い、習慣化していただきたいと思っています。

また、右折にも十分注意してください。通勤時などは、対向車より早く行くという焦りからスピードを上げて曲がる人がいますが、最も死亡事故につながりやすいケースです。時間に余裕を持ち、サイドミラーなどの死角に隠れている歩行者がいなか十分に確認してから右折しましょう。

当り前の減速を 当り前に

交 通安全協会では通学路における子どもの見守りや啓発旗を掲げるなどの活動を行っています。活動や普段の生活で感じるのは、スピードを出すドライバーが多いこと。通学路や細い生活道路でも、勢い良く通過する車を目にします。

当り前ですが、スピードを抑えれば事故の防止や被害の軽減につながります。特に通学路では注意が必要です。子どもは歩道やグリーンベルトを歩いている際、車への意識が低くなります。油断から道路に飛び出す子どもも散見されます。ゾーン30の速度順守、歩道での一時停止など、ドライバーが当り前のルールを守ることによって子どもの安全を守りましょう。



安曇野交通安全協会 安曇野支部長
まさひろ
塚田 正敬 さん



当時の様子を振り返る高橋典さん（豊科高家）

三十一年間、
見守ってくれて
ありがとう。

あ の日、母親の典さんは息子2人と娘1人で祭りに行き、交通事故に巻き込まれました。突然意識がなくなり、気付くと広場は惨状になっていました。典さん自身も腰と足の骨が折れる重傷で、家族は別々の病院に搬送されました。理恵ちゃんの死は、ご自身が入院する病院で告げられたといひます。

「あれから30年以上経ちましたが、事故を忘れたことはありません。あの事故を知らない人が多くなる一方で、今でも誰かが水や花をお供えしてくれます。本当にありがたいです」。

令和元年6月30日、ご遺族の希望により、理恵像は地域での大きな役割を終え、理恵ちゃんの眠るお墓へ移設されました。

「理恵ちゃん、長い間広場を見守ってくれてありがとう。今度はお空の上から皆んなを見守ってね」。



大切に保管されている
理恵ちゃんの写真

あなたは危険な運転をしていますか？

交差点で・・・

- 直進の対向車が接近しているにもかかわらず右折する。
- 対向車の左折にかぶせるように右折する。
- 信号待ちで青信号と同時に強引に右折する。
- 方向指示器（ウインカー）を出さずに進路変更する。

いずれも道路交通法違反や重大事故に繋がる危険な行為です！

横断歩道で・・・

- 歩行者が渡ろうとしているときに、横断歩道の手前で停止しない。
- 横断歩行者を妨害する。
- 車両で隠れて見通しが悪い横断歩道の手前で減速しない。

横断歩道は歩行者の聖域です。運転者は横断者の動向に注意しましょう。

運転ルール・マナーの違反が重大な事故につながります。

日ごろの運転を見直し、他者を思いやる運転を心がけましょう。